

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
1【いきる】 2【かかわる】 3【そなえる】	④【夢や希望の大切さ】⑧【家族の絆】⑨【仲間や地域の人々とのつながり】 ⑬【地域づくり】⑮【東日本大震災の様子と被害の状況】⑰【自然災害の歴史】 郷土を愛し、夢と希望をもって、共に考え、支え合いながら生きていくことの大切さを実感する。	教科等 (総合的な学習の時間)

【題材】 「岩手に生きる自分たちにできることは何だろう」

【対象】 6年生

【実践の概要】

被災地を訪問し、自分の目と心で被災地の様子を知り、郷土岩手の復興への意識を高め、自分たちでできることを考える。

	活 動 内 容
6月22日	○ 講演「3.11 あの日を知り これまでを想いこれからを考える」 金ケ崎町教育委員会指導主事齋藤真先生から釜石東中学校での震災当時の様子について保護者と一緒に聴き、震災について考えた。  講演を聴く6年生と保護者
7月17日	○ 被災地訪問の事前学習会 訪問予定の大船渡と陸前高田の震災当時の様子と現在の様子について、写真集や新聞記事から調べた。
8月8日	○ 被災地見学学習（大船渡と陸前高田） ボランティアガイドから現地を案内してもらいながら、震災時の被害状況や現在の復興状況について、目と心で見え感じた。
9月～11月	○ 課題作りと調べ学習 被災地を訪問して感じたことや考えたことから、課題を立て調べ学習をした。
10月21日～ 10月26日	○ 募金活動と学習発表会での呼びかけ 越喜来小学校への募金活動を全校児童に向けて1週間行った。学習発表会の場を活用し、閉会の言葉の中で、保護者や地域に向けて募金協力の呼びかけを行うことで被災地訪問での思いを参観者全員に発信することができた。
11月27日	○ 防災学習 金ケ崎や三ヶ尻地区の災害の歴史を、 地域の方から学んだ。 
12月	○ まとめと発表、学習の振り返り

【実践の詳細】 8月8日 被災地見学学習（大船渡・陸前高田）

1 行程

学校（8：30） → 大船渡ボランティアセンター（10：00） 木工団地 → 橋爪商事 →
さいとう製菓（株）本店跡（10：30） → 時計塔 → サンアドレス公園（11：30） →
屋台村 → 細浦港 → 大田団地 → 碁石海岸（12：30） →
陸前高田 奇跡の一本松（14：30） → 学校着（16：00）

2 見学学習の様子

○はじめに大船渡市の被害の様子を車窓から見学した。そこに住宅や商店、工場があったことをイメージできなかつたが、ガイドさんから以前の町の様子大きな写真を見せられ、何もなくなり草地になっていることに改めてびっくりした子どもたちであった。さらに、さいとう製菓（株）本社跡の無残な姿となった建物と、津波の高さを示すパネルの高さに驚きの声を上げていた。サンアンドレス公園では、「鎮魂愛の鐘」を鳴らし、どの子どもも復興への祈りをささげた。

○陸前高田では、大船渡市よりもさらに何もない草地の広がり、未だ残されている瓦礫の山に、津波被害の大きさを実感した。自分ができることは何かを考えていきたいという思いを抱かせる見学学習となった。



さいとう製菓（株）本社跡



子どもたちが見た陸前高田

H25・9・10 胆江日日新聞



児童の感想

○今回の見学で、津波がどんなに怖いものか分かりました。見学を通して自分にできるボランティア協力などを積極的にやりたいと強く思うようになりました。

○3月11日のことをもう一度ふりかえることができました。ここまでは津波はこないだろうと油断していて犠牲になった人がいたと聞いたので、津波が来ない町でも油断しないようにしたいです。これから私ができることを考えて、実践していきたいです。

まとめ

○被災地見学学習前に、参観日に親子一緒に「講演」を聞き、家族の絆の大切さや被災地へ心を寄せることの大切さを感じることができたことで、夏休みの被災地見学学習が有意義なものとなった。子どもたちは、同じ岩手に生きる自分たちができることを考えていこうという気持ちを強くした。共に考え、支え合いながら生きていこうとする態度の育成につなげることができた。また、震災津波を教訓に、自分たちの地域に起こる災害についても学習したことで、防災意識を高めることができた。○今後も被災地とのかかわりを持ち続けたい。

奇跡の一本松と子どもたち



保護者の感想

<講演について>○まだ知らなかったあの日を知り、これまでを振り返り、これから私がやるべきことは何かを改めて考えさせられました。実際に津波をすぐそばで経験された先生の話聞き、帰ってから家族の絆、命の尊さ、生きていくこと…いろいろ子どもたちと話しました。子どもたちもよく聴いていました。

<子どもたちの被災地見学について>

○ガイドの方の説明を熱心に聞いてきたようです。また、更地の多い現状を見て、復興はこれからだと改めて感じたようです。被災地を訪問学習したことは有意義なことです。子どもたちが、自分たちが将来復興の担い手になるということを、これから少しずつ理解していってもらえればと思います。